



CONTENTS

- 2 第12回鹿嶋市まちづくり市民大会
- 2 施設紹介・ようこそ！まなびの杜
「講義室」
- 3 ^{しみせん}市民センのひろば ほか
- 3 地域レポート・まちづくり探検隊
「第30回新春高松かるた大会」
- 4 INTERVIEW ROOM・きらり★まちづくり
「NPO法人さわやかネット・佐藤千春さん」



第12回 市制施行20周年記念 鹿嶋市まちづくり市民大会

大野まちづくりセンター多目的ホールで2月8日、第12回鹿嶋市まちづくり市民大会が開催されました。

今年度は、「高齢化に伴う地域社会のあり方を考える～新たな結びつきのかたちを探る～」をテーマとして、近年の自治会加入率の低下や地域コミュニティの希薄化の問題に対し、高齢者の見守りや支え合いの活動などを切り口に、地域コミュニティの再生と活性化のための具体的な方策について考える大会でした。

第一部では、平成26年度まちづくり市民・団体表彰が行われ、地域のさまざまな分野で



まちづくりに貢献された4団体、9名の皆さんに錦織孝一市長から表彰状が手渡されました。

第二部のシンポジウムでは、松本短期大学・合津千香准教授から基調講演をいただいたあと事例発表として、平井丘区長・小田一郎さんと特別養護老人ホーム「セ・シボンかしま」施設長・御鳴定子さんから、それぞれ地域での取り組みの発表がありました。

当日は、あいにくの雨模様にもかかわらず、会場いっぱいに集まった参加者がシンポジウムに熱心に耳を傾けていました。

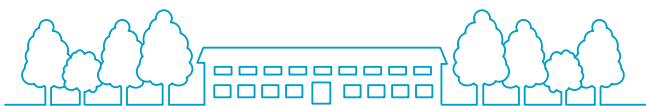


▲松本短期大学・合津千香准教授



▲(写真左から)小田一郎さんと御鳴定子さん

～まちづくり市民センターの館内をシリーズで紹介～



ようこそ! まなびの杜

(vol.3)

「講義室」



講義室は、講演会や講習会、研修会などにご利用いただいています。

机は固定式で移動することはできませんが、最大130人まで収容できます。

【利用要件】

まちづくり市民センターの施設を利用できる団体・個人で、生涯学習活動を目的とすること。

※営利目的や政治、宗教活動を目的としたものには利用できません。



<講義室 データファイル>

- 【場所】 B棟3階
- 【面積】 147㎡
- 【備品】 有線マイク1本、演台
- 【収容人数】 130人まで
- 【施設の予約】 利用する日の前月の1日から予約可能
- 【利用料金】 市内在住・在勤の方は無料。
ただし、生涯学習活動でない場合等は有料(2時間まで1,850円、2時間以降1時間毎に920円加算)。

利用します!!

しみせん
市民センの



矢尾 小春さん
(港ヶ丘)

中国語を教えて20年！中国語を習って旅行に行くと、より楽しくなりますよ。一緒に勉強しましょう！



前田 竜甫さん
(平井)

4月からは高校生会のOBになるので、今までとは違う形でサポートできるように頑張ります。



錦織 早苗さん
(緑ヶ丘)

楽器が好きでフルートの練習で月に2～3回利用しています。今後は他の楽器にも挑戦していきたいです。

地域レポート



まちづくり
探検隊
(vol.4)



第30回 新春高松かるた大会

高松地区の言い伝えや風習、名所・旧跡を絵札にした新春高松かるた大会が1月10日、高松まちづくりセンターで開催されました。

高松かるたは、今から約30年前、鹿島開発で変わりゆくふるさとの文化を後世に語り継ごうと、当時の高松公民館の事業「高齢者大学」で制作されたものです。記念すべき30回目の大会となった今年は、絵札の原画を描いた地元の画家・坂本陽三さん(80歳)のほか、かるたの制作を発案した当時の高松公民館職員・大森庸司さん(65歳)も島根県から来賓としてかけつけました。

高松地区の子どもからお年寄りまでの約120人が、幼稚園・保育園の部、小学校低学年の部、高学年の部、シニアの部に分かれて取った絵札の枚数を競い、会場は熱気に包まれていました。



▲幼稚園・保育園の部の様子



▲絵札を描いた坂本陽三さん



▲鹿嶋語り部の会による紙芝居も上演されました



▲高松かるた制作の発案者・大森庸司さん(前列右)とシニアの部の皆さん



▲おめでとうございます！入賞者全員で記念撮影

ご利用ください!

地区まちづくりセンターに
子育て支援遊具が
整備されました

地域の子育て中のお母さんたちが、子どもと一緒に遊びながら、情報交換できる居場所づくりとして、市内の地区まちづくりセンターに、プレイサークルやブロックなどの子育て支援遊具を、順次整備しています。

お気軽にご利用ください!



▲平井まちづくりセンターに整備されたプレイマット

★編集後記★今年で30回目を迎えた高松かるた大会。シニアの部に参加した皆さんにお話を伺うと「私たちの祖父母たちが作ったのよ」と教えてくれました。子どもからお年寄りまで世代を超えて親しまれている「ご当地かるた」に、30年の歴史と地域の文化が引き継がれているのを改めて感じました。次号は、6月15日に発行予定です。カメラを向けた際には笑顔でポーズをお願いします。

NPO法人さわやかネット 事務局長
佐藤千春さん
(緑ヶ丘)



「もしもノート」を書いて 安心生活を

かしま灘楽習塾で、「もしもノート」の講座を開いて丸3年が経ちます。元気なときは良いけれど、急に病気になったときの手続きは大丈夫か、ペットはどうしようなど、考え出すと不安になることがあると思います。自分の財産や病気、葬送など、もしものときにだれに何を頼みたいか、自分自身の考えをまとめてノートに記す。このノートがあれば、その人の意思が伝わる「後見ノート」にもなるんです。

高齢者の見守りネットワーク 「さわやかネット」を設立

成年後見制度は、資産家や弁護士の先生のための制度とされていますが、老いによる判断能力の低下はだれにでもやってきます。

移り住んだ鹿嶋で、不安なく安心して暮らしたい。独りになった自分が将来やってもらうために、今、自分が人のためにできることをしよう。そんな精神の「市民後見人養成講座」を受講した仲間と、2年ほど前に高齢者の見守りネットワーク「さわや

一人ひとりとの信頼関係を築きたい “お互いさま”の精神で高齢者の見守り

家族でも友だちでもない 新しい絆

絆は柵を受け入れることだと言われます。例えば、月1回の通院の送迎なら、友だちがやってくれないわけではない。けれど、長い年月には負担になり友だちとの仲に亀裂が入ることもある。それならば、家族でもない友だちでもない絆＝「契約」という関係があっても良いのではないかと思うわけです。子どもがいない、いたとしても迷惑をかけたくない。時代とともに家族関係が変化し、契約の中での心地よい関係が必要とされている時代なのかもしれません。無償でなく、お互い様の精神で理にかなった金額で手配できるのが希望です。

現在、鹿嶋でというより鹿行地区でも、このような血縁者のいない人のための見守りネットワーク組織は、さわやかネットしかありません。こういう組織がもっと増えれば選択肢が広がり、自分の雰囲気合うところに入会できる。そこで見守ってもらえるのが本当は一番幸せだと思います。

この1月に任意団体からNPO法人となり、今年は、会員とのネットワークをより深めるのが目標です。一人ひとりと関係を丁寧にじっくりと築いていきたい。はじめから大風呂敷を広げるのではなく、今のメンバーを大切に小さく産んで大きく育てるつもりで地道にやっていきたいです。

かネット」を立ち上げました。定期的に高齢者向けの相談会を開催したり、会員の見守り活動、必要に応じて日常生活の事務手続きをサポートする活動などを行っています。

活動していると、福祉サービス制度についてよく知られていないんだと感じます。そこで今年度は、「終活講座」として、介護保険や成年後見制度などに関する講座をシリーズで開催しました。

現在、会員は約20人ですが、会員になったからといって、すぐに事務委任や後見の契約を結ぶわけではありません。「ここから先は身元引受人ができるので、そこまでの分をさわやかネットに頼む」というように、人によって頼みたいことはさまざまです。本人に寄り添いながら、本人を中心に地域の見守りネットワーク（地域包括ケア）のパイプをより太くするのが私たちの役目なんです。ほど良い距離を保ちながらも、気持ちを理解し合える関係を築ける組織にしたいと思っています。



▲会場いっぱいとなった第6回終活講座にて
(写真中央が佐藤千春さん)

<PROFILE>

■さとう・ちはる

NPO法人さわやかネット代表理事。生涯学習団体「かしま灘楽習塾」の設立メンバーで、同塾の第2代塾長。現在も役員として運営に携わる。山形県酒田市出身。48歳。